

『スポーツと差別問題』

朗読者 有森 裕子

6

最近、街を歩いていると海外からの観光客をよく見かけるようになりました。日本を訪れる外国からの観光客は年々増加し、福岡はクルーズ船の寄港回数で国内トップクラスとなつていきます。

10

一方、各地で、外国の人たちに対する差別的な発言や行動がトラブルを招いています。レストランの入店を拒否された、ホテルで差別的な扱いを受けた、予約を拒否されたといったお話も聞きます。

15

スポーツの世界でも例外ではありません。今や一流のアスリートたちは国境を越えて活躍しています。そうした活躍に水を差すような差別的な言動や行動はとても残念です。

20

少し前のことになりましたが、サッカーブラジル代表のアウトベス選手がスペインリーグで活躍していた時に、観客からバナナが投げ込まれるという事件がありました。「おまえはサルだ」という人種差別的な行為です。これに対し、アウベス選手は平然とそのバナナを拾って、食べてしまったのです。「こんな差別、一飲みにしてやるぜ」と。これにはみんな拍手喝采でした。

私自身は海外での競技生活の中で、日本人だからという差別

を受けたことはありません。

ただ、言葉の壁は感じました。その国の言葉が話せたらもつとコミュニケーションがとれたのになあ。歯がゆい思いや、寂しい思いをしたこともありました。言葉や習慣、価値観など、お互いの文化の違いなどから誤解をまねくこともあります。

間もなく開催される東京オリンピック・パラリンピック。

あらゆる差別をなくし、アスリートも観客もみんながひとつになれるスポーツの祭典。日本での大会が、そんな差別のないオリンピック・パラリンピックを提唱できたら素晴らしいと思います。

あらゆる差別をなくそう。スポーツの世界だけでなく、すべての人が平等に活躍できる社会をめざそう。そんな呼びかけを、世界に発信していきたいと思います。

そして大会という事だけでなく、日本への注目が集まる中、差別をなくそうという意識をみんなが高めていきましょう。